

令和5年度文部科学大臣優秀教職員被表彰者名簿

- 1 推薦件数 6件【内訳 小学校2件、中学校1件、県立学校2件と1団体】
- 2 選考結果 6件が表彰
- 3 被表彰者名簿

番号	校種	分野	地教委	学校名	氏名	主たる担当	推薦の具体的事由
1	小学校	⑨学校教育	天理市	前裁小学校	うたふさ ふうみこ 歌房 芙未子	第5学年担任 特活主任	教師が学び、考え続ける大切さ ～一人一人の不安を軽減するために～
2		①学習指導	橿原市	金橋小学校	なかお きょうこ 中尾 恭子	音楽専科 副教務 教育相談部	子どもが主体的につながる音楽活動について
3	中学校	①学習指導	上牧町	上牧第二中学校	うめつ まさあき 梅津 雅亮	第3学年 教務主任 進路指導主事	学習指導等における特に顕著な 成果について
4	県立	⑨学校教育	北部	国際高等学校	ほんま なおき 本間 直樹	教務部長	観点別学習状況の評価の実践に ついて
5	教職員組織・県立	⑥地域との連携協働	特別支援	大淀養護学校	支援教育部 「実践ヒント 交流会」 ちば みゆき 千葉 美雪 他	支援教育部長	win-winの関係で学び合う地域支 援『実践ヒント交流会』
6	若手・県立	①学習指導	中部	香芝高等学校	かわした ゆういち 川下 優一	3年(表現探究 コース担任) 教育企画部長	表現探究による学習の基盤とな る資質・能力を兼ね備えた創造 性豊かな人材の育成

4 その他

- ・新型コロナウイルス感染症の状況等を踏まえ、表彰式は令和6年1月16日（火）に全面对面形式で実施
- ・文部科学省及び県教育委員会のホームページ上に掲載済

令和5年度 文部科学大臣優秀教職員表彰 被表彰教職員・教職員組織名簿

小学校

No.	学校名	氏名／団体名	概要
1	天理市立 前栽小学校	うたふさ ふみこ 歌房 芙未子	<p>教師が学び、考え続ける大切さ ～一人一人の不安を軽減するために～</p> <p>学級には特別支援学級に在籍している児童、入級していても通級している児童やしんどさが顕著な児童、不登校(傾向)児童、虐待傾向にある児童がおり、各々多かれ少なかれ困っていることがある。そうした“困り感”は“不安感”につながると捉え、みんなが不安感をあまり感じることなく、のびのびと力を伸ばしていけるよう実践してきた。</p> <p>毎日の登校が難しい児童との関わりにおいてASD(自閉スペクトラム症)の理解を深め、「登校するのが当たり前」と思うことで見えなくなってしまう“子どもの頑張り”や“不安”に気づき、「登校するのは当たり前ではない」と思うことで、児童が学校で過ごす時間をより充実したものにしたいという考えを強くもつようになった。</p> <p>試行錯誤しながら児童に関わり、研修を積み重ねた。自分自身の子どもへの見方の変容が“しんどい子”と言われていた子が力を発揮できるような手立てを考えることにつながっている。特に、専門の先生に講義や事例検討をしていただいて得たものが大きく、今後は、自身が学び続けるのはもちろんのこと、より多くの職員と情報交流をしたり、研修の機会を設けたりして、職員の指導力向上のために働きかけていきたいと考えている。</p>
2	橿原市立 金橋小学校	なかお きょうこ 中尾 恭子	<p>子どもが主体的につながる音楽活動について</p> <p>上記目標を達成するため、日々の教材研究を大切にして、授業に臨んでいる。特に歌唱指導に力を入れ、児童に美しい声とはどういう声か、どう表現するか等、自らの声を聴かせたり、児童に考えさせたりして学習を進めている。</p> <p>コロナ禍の中で音楽活動の制限がある中でこそできる音楽の授業を考え、コロナ禍でも成立する音楽会を模索し、2学年ずつ対面で音楽交流会を行い、後日その様子を全校児童が視聴する形を取るなど、前向きに取り組んだ。昨年6年生で取り組んだボディーパーカッションは、児童の心を一つにつなげ、校内音楽会では、他学年の児童に音楽は楽器だけで表すものではない、身体も音楽になると、音を楽しむ音楽を伝えることができた。また、音楽を通してつながりを深めることが自信となり、学年を超えて次への意欲にもつながる取組になった。</p> <p>自らも休日は歌唱指導を受けたり、授業にICT機器を積極的に取り入れるなど、常に研鑽を積んでいる。</p>

中学校

No.	学校名	氏名／団体名	概要
3	上牧町立 上牧第二中学校	うめつ まさあき 梅津 雅亮	<p>ICT活用、評価の見直し、家庭学習の支援など学力を高める指導・支援の工夫について</p> <p>生徒が、目的意識を持って学習に取り組み、キャリア理解をもとに自らの進路を切り拓くために、教員の授業力や観察力の向上、学校外部からの講演や進路情報の発信で生徒自身に考えさせ刺激を与える等を軸に取組を行った。</p> <p>取組の内容は、以下の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を育成するため、またその取組を正しく評価するため、自身の教科である国語の例を示し研修を主催し、他教員の授業見学もしながらOJTを積極的に行い、学校全体の指導力を向上させた。 2. Chromebookを場面に応じて使い分け、生徒の関心や発言の機会を高め、他者の意見を知り共有することを大切に取り組んだ。また、自身が研修や実践で得たものは、他の教員に提供し教員全体の授業力を高めた。 3. キャリア理解をもとに、進路を切り拓くことができるように、生徒と保護者に向けて進路学習や講演会等を開催し、目的意識を持った学習につながるよう取り組んだ

県立学校

No.	学校名	氏名／団体名	概要
4	奈良県立 国際高等学校	ほんま なおき 本間 直樹	<p>観点別学習状況の評価の実践について</p> <p>国際高等学校は、令和2年度に開校し、開校当初から教務部を中心に全職員で、観点別学習状況評価に取り組んだ。</p> <p>導入に当たっては、長年に渡り行われてきた「評価＝テスト」の考えを取り除くため、評価のあり方について共通理解を図るとともに、新しい評価方法を身近なものと感じられるように「取り組みやすさ」を最優先して、学期に複数回、校内研修を行った。</p> <p>研修内容については、教務部内にプロジェクトチームを立ち上げ、「観点別の評価計画例」を作成して、各教科内で何に「重みづけ」をして、授業・評価を進めていくかを検討した。これらの検討を進めていく中で、新しい評価に必要な視点を校内で共有することができた。</p> <p>具体的な取り組みとして、生徒の「自らの学習を調整しようとする態度」の育成のため、単元テストや成果物等により、各単元の達成度を観点別にフィードバックすることで、指導と学習のPDCAサイクルの確立に取り組んだ。令和3年度には、試行的に一部の定期考査を廃止し、令和4年度から定期考査を全廃し、単元テスト等での評価を実施した。また、定期考査を実施していた期間を「個人探究週間」として設定し、生徒自らの課題や理解の状況を振り返り、自らの学習を調整して、新たな課題を見つけ学び続けようとする態度の育成に取り組んだ。</p> <p>これまでの取り組みにより、観点別学習状況の評価が教員や生徒にとって身近なものとなったことが大きな成果であり、令和4年度の学校評価アンケートにおいて、「定期考査だけでなく様々な面から成長を評価してくれている」という項目に対して、保護者、生徒ともに85%を超える肯定的な意見を頂いた。</p>

教職員組織・県立

No.	学校名	氏名／団体名	概要
5	奈良県立 大淀養護学校	支援教育部 「実践ヒント交流会」代表 ちば みゆき 千葉 美雪	<p>win-winの関係で学び合う地域支援「実践ヒント交流会」</p> <p>大淀養護学校では、センター的機能の一つとして地域の先生方への支援機能として特別支援教育に関する相談「実践ヒント交流会」を実施している。校区内の校園の先生と本校の教職員が学び合う教育相談交流会として、毎年、夏季休業に入った7月下旬に実施している。昨年及び今年度は、感染症対応のためオンラインで実施している。実施内容は、全体会、公開教室、アイデア宝箱、個別の相談会である。全体会は特別支援に関する情報提供や本校の取組を紹介している。公開教室は教室環境や視覚支援の取組など、実際の教室を見ていただけるようにしている。アイデア宝箱は研究部が中心に企画し、本校教職員の自作教材だけでなく、身近な物を使った教材、支援グッズなどを紹介展示している。オンラインになったことで遠方の先生方の参加が増加し、こども園などの先生が複数で参加できるようになった。どの先生方も、一生懸命に実践をしておられる一方、今の取組でいいのかと不安に感じたり悩まれたりしている先生が多いという印象である。また、実践ヒント交流会がきっかけで継続した支援につながったケースもある。</p> <p>本校教職員にとっては、地域の支援教育のセンター的役割を担うセンター校としての専門性を高める機会となっている。こども園や小学校・中学校などの様子や自立活動の取組、学習について、幼児児童生徒の様子、先生方の実践などを知ることができている。また、申込用紙からニーズに合わせて調べたり詳しい教員に聞いたりしながら相談に向けた事前準備をすることで、本校の実践が整理され、新たな気づきにつながっている。さらに、複数体制で行っていることで若手教員と経験がある教員と一緒に取り組むことができ、人材育成の機会にもなっている。本校教職員にとって実に学びの多い交流会になっている。</p>

県立学校若手教職員等奨励賞

No.	学校名	氏名／団体名	概要
6	奈良県立 香芝高等学校	かわした ゆういち 川下 優一	<p>表現探究による学習の基盤となる資質・能力を兼ね備えた創造性豊かな人材の育成</p> <p>言葉による表現を基本とし、プレゼンテーションや創作活動、探究的な学習を通して、言語能力や情報活用能力、コミュニケーション能力を身に付けた創造性豊かな人材を育成することを目的に、令和2年度に設置された表現探究コースで、カリキュラム開発と授業展開を行っている。</p> <p>「表現探究Ⅰ」（1学年）では、取材をして新聞記事を書く活動を通して、取材相手を理解しようとする他者理解や、言語能力、情報活用能力を育成している。「表現探究Ⅱ」（2学年）では、創作活動やグループでの探究的な学習を中心に展開し、大衆に自らの考えや想いを伝える創造力や探究的な学びの基礎を身に付けることを目指している。地元ラジオ局や近隣自治体の協力を得て学んだ内容をまとめ、プレゼンテーションをして相互評価を行いつつ、自らの学びを振り返るなど、探究的に学習している。</p> <p>「表現探究Ⅲ」（3学年）では、自らの進路と社会や学術の課題が重なる部分を研究テーマとして、情報やフィールドワークで得た知見をもとに探究的な学習を行っている。</p> <p>校外の様々な年代や職業の方と関わる中で、自分の考えを的確に伝える力が伸び、学校での授業における発表の様子も確実に成長している。</p>